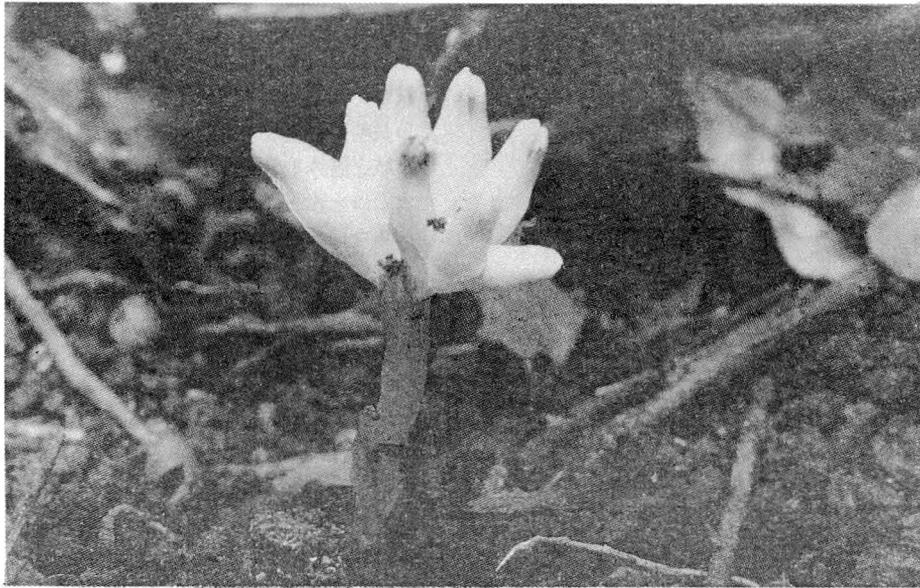


FLORA KANAGAWA

Apr. 25. 1992 No. 33
神奈川県植物誌調査会ニュース第33号

〒231 横浜市中区南仲通 5-60 神奈川県立博物館内 神奈川県植物誌調査会
TEL 045-201-0926・振替 横浜 3-10195



ヒナノシャクジョウ

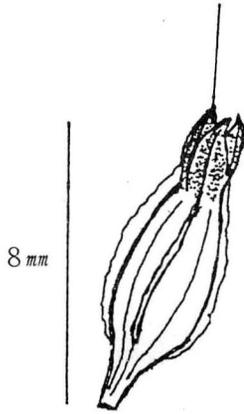
(吉田三夫)

本種は「神奈川県植物誌1988」によれば、文献上の記録は4件で、産地はいずれも箱根であり、標本はなく、稀産という。これが川崎市多摩区で発見された。発見者は市立犬蔵中学・生物部の高栄教諭と部員の方々である。生育地は多摩丘陵の谷戸頭であり、その上部は造成されて建築物があり、一方の斜面はクヌギ・コナラ林、他方の斜面は小林分であるがシラカシ林となっている。谷底はハンノキ林である。高木層にはハンノキ、コナラなど、低木層にはアオキが優占し、イヌツゲ、ネズミモチ、ヒサカキなどが生えている。湧水（生活排水を含む）の量が多く流水域は侵食をうけている。この流水域の凸状地にヒナノシャクジョウが生育している。空中湿度が高く、腐植が多いじめじめとしたところである。

関東以西の本州、四国、九州の暗い林内、常緑広葉樹林などに生育する多年草の腐生植物。根茎は楕円状に肥厚し多数のひげ根を出す。茎は1本で、高さ3~10cm。披針形の鱗片葉はまばらに互生する。8~10月に極めて短い柄を持つ2~10個の白色の花をやや頭状につける。3個の外花被は合着して筒状になり、3稜を持ち、その先端は短く3裂する。3個の内花被はへら形で小さく目立たない。

ヒナノシャクジョウ

外花被



花



エビアマモの分布と相模湾にける開花期

(大森雄治)

分布

アマモ科エビアマモは牧野富太郎・河野福太郎により、1896年に安房国長狭郡天津で初めて採集され、これはそれまで旧世界では未発見の *Phyllospadix* であり、和名はエビアマモとされた(牧野, 1897; MAKINO, 1910). 牧野(1897)は、翌1897年4月には安田 篤と乾 環が上総国夷隅郡勝浦で同種を採集したこと、理科大学(現東京大学)の標本中、江ノ島産のものもあることを記している。

MIKI (1933) の分布図からは、太平洋側で茨城県から三重県まで、日本海側で新潟県佐渡島から長崎県対馬までがエビアマモの日本における分布域と読み取れるが、三木が採集したアマモ科標本のほとんどが所在不明のため、詳しい産地はわからない。このうち、太平洋側における分布は、中庭(1987)により詳しく調査され、茨城県北部伊師浜が北限であり、茨城県にはスガモも分布し、両種が混生しているところがある(中庭, 1987)。一方、新版千葉県植物誌(千葉県生物学会編, 1975)には、type locality である房総半島南部における採集記録はない。静岡県では下田白浜、相良、御前崎にあり、少ないとされる(杉本, 1984)。南限は志摩半島の大王崎とみなされる(DEN HARTOG, 1970)。

日本海側では、秋田を北限とする記録(上野編, 1991)、山形県温海の記録(結城, 1972)などが新たに加わり、日本海側北部の広範囲の調査が必要であろう。

神奈川県における採集記録は、大場博士による相模湾の鎌倉市稲村ヶ崎があり(神奈川県植物誌調査会, 1988)、文献記録の上では、東京湾の湾口部、横須賀市久里浜(神奈川県博物調査会, 1933; 増島・石渡, 1950ほか)がある。久里浜周辺で生育可能な環境は、久里浜港の南側の千駄ヶ崎か北側の千代ヶ崎と考えられるが、いずれも埋め立てられ、現存する可能性はうすい。また、DEN HARTOG (1970) が引用した標本には、江ノ島(1932.4.6)、片瀬(1938.5.1)がある。

開花期

今回採集したエビアマモは、大場博士からご教示いただいた地点で、稲村ヶ崎の西約200m、波打ち際から約50m沖で、大潮の干潮時には海水が

ややひたるような平らな岩礁地に生育していた。花卉のないアマモ科の開花期を判断するのは難しいが、雌花の開花期は白色の花柱が花序を包む仏炎苞から外に出ており、しかも茶色に変色する前であり、雄花の場合は葯が裂開し、葯隔付属突起が反り返る頃と、外見上判断できる。

1991年4月15日に採集したときには、雄花の葯はすべて裂開し、花序がすでに朽ちていた。雌花は若い果実であった。また、1992年3月8日に採集したときには、花粉はほぼ成熟しているようであったが、葯は葯隔付属突起に覆われ、まだ裂開しておらず、雌花は少数ながら白い花柱が外に出ている株があった。このことから推定して、エビアマモの雄花の開花期は、相模湾で3月中旬から下旬と考えられる。また、同属でより北に分布するスガモでは、1991年に北海道根室半島北部で観察したところ、4月中旬から4月下旬と推定される。アマモ属の場合、アマモは相模湾の小田和湾で4月上旬、タチアマモはその約1か月後と記録されており(相生, 1989)、エビアマモの開花期がアマモ属に比べかなり早いことが判る。

これまでの観察によれば、アマモとタチアマモの場合同所的に生育していても、花の成熟期がずれ、生殖的隔離がなされているようである。エビアマモとスガモが混生する茨城県の海岸では生殖的隔離がどのようになされているのか興味深い。

引用文献

- 相生啓子 1989. アマモの生育環境. 水草研究会会報, (37):5-7.
- 千葉県生物学会編 1975. 新版千葉県植物誌. 井上書店. 567ページ.
- DEN HARTOG, C. 1970. The sea-grasses of the world. North-Holland Publishing Company.
- 神奈川県博物調査会編 1933. 神奈川県植物目録. 神奈川県博物調査会. 111+23 ページ.
- 神奈川県植物誌調査会編 1988. 神奈川県植物誌 1988. 神奈川県立博物館. 1442ページ.
- 牧野富太郎 1897. 日本ニ於テ海産顕花植物 PHYLLOSPADIX属 1種ノ発見. 植物学雑誌, 11:135-139.
- MAKINO T. 1910. Phyllospadix japonicus MAKINO in "Observations on the flora of Japan". Bot. Mag. Tokyo, 24:104-106.
- 増島弘行・石渡治一 1950. 三浦半島植物誌(横須賀市史No.6). 85ページ.
- MIKI S. 1933. On the sea-grasses in Japan (I). Zostera and Phyllospadix, with special reference to morphological and ecological characters. Bot. Mag. Tokyo, 47:842-862. pl. 3.
- 中庭正人 1987. 茨城県沿岸における海草エビアマモの分布. 水草研究会会報, (30):10-11.
- 杉本順一 1984. 静岡県植物誌. 第一法規出版. 814ページ.
- 上野雄規編 1991. 北本州産高等植物チェックリスト. 東北植物研究会. 365ページ.
- 結城嘉美 1972. 山形県の植物誌. 山形県の植物誌刊行会. 401ページ.

三浦半島におけるヤクシワダンの採集記録 (大森雄治)

ヤクシワダンは葉山がtype localityである(MAKINO, 1917)にもかかわらず、神奈川県植物誌調査会の調査期間中には採集されなかった(神奈川県植物誌調査会編, 1988)。昨年, 1991年11月2日と11月20日(鈴木一喜・深津 正両先生に同行していただいた。)に長浜から荒崎にかけての海岸を調査する機会があり、長浜寄りの海岸でヤクシワダンを得たので報告する。ヤクシワダンの周囲には2mほどの範囲内に、ワダンとヤクシソウが生えていた。ワダンはほぼ咲終わり、ヤクシソウは咲き始めであった。なお周辺には、ソナレマツムシソウが咲き、イソギクは3部咲き、ヤマラッキョウが咲き始めていた。

MAKINO (1917)によれば、「ヤクシワダンは、ヤクシソウに比べ、茎が頑強で、下方の枝も頑強で長く、葉は厚く縁はやや波状、頭花は密で小花の数は少ない。また、ワダンに比べ、茎や枝は細く、葉は小さく少数の波状縁があり、茎を抱いている。細長く溝のある総苞で、小花の数(5個でなく8個)は多い。舌状花冠は長く、瘦果は細く長い。冠毛も長い。」と記載されており、北村(1981)によれば、ワダンの総苞内片は5、ヤクシソウの頭花は13-19となっている。今回採集された個体の特徴はこれにほぼ一致した。以下の表で明らかのように、そのほかの形質も多くはワダンとヤクシソウの中間的であったが、果実は雑種であるヤクシワダンが大きく、瘦果の上半

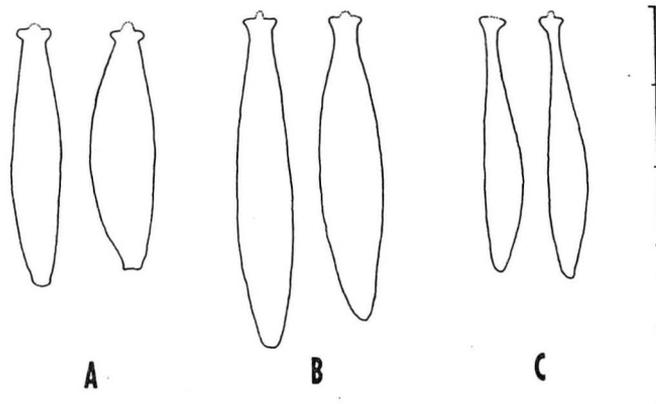
部はヤクシソウで細長くなり、ワダンとヤクシワダンでは細くならず、上下対称の紡錘体であった(第1図)。全形の印象はMAKINO (1917) が指摘したように、飯沼・牧野 (1912) のタイレンサイによく似ていた。

ヤクシワダンの産地は、相模葉山と朝鮮半島南部(原, 1952) や三浦半島と伊豆七島(杉本, 1983) と記載され、分布に関してはまだ検討の余地がある。文献の上からは、三浦半島にはよく見られるようであるが、これまでの採集例では、横須賀市自然博物館には標本がなく、神奈川県立博物館に、三浦市南下浦町毘沙門で大場達之博士が1963年11月21日に採集した標本(KPM-19461) が1点あるだけであった。勝山輝男氏によると、1990年に三浦市黒崎の鼻で、1991年に三浦市毘沙門で複数のヤクシワダンを見られたそうである。

ワダンの東端は房総半島で、上総の岬町大東岬・富津市大佐和以南(千葉県生物学会編, 1975), 西端は伊豆半島東岸で明治・大正期に稀にあったが、現在では絶滅したという(杉本, 1984)。しかし、最近のワダン属の果皮と核形を比較検討した報告中には(PAK and KAWANO, 1990), ワダンの採集地として、三重県Isenohama があげられている。また、アゼトウナは館山に記録があり(千葉県生物学会編, 1975), 南関東のワダン、アゼトウナの分布は、伊豆半島や伊豆諸島を含め、再調査する必要がある。

引用文献

千葉県生物学会編 1975. 新版千葉県植物誌. 井上書店. 567ページ.
原 寛 1952. 日本種子植物集覧 第二冊. 岩波書店. 280+30ページ.



第1図 ワダン・ヤクシソウ・ヤクシワダンの瘦果。A:ワダン, B:ヤクシワダン, C:ヤクシソウ。スケールは5mm。

第1表 ワダン・ヤクシソウ・ヤクシワダンの形態の比較。

	小花数	葉質	葉の縁	葉の基部	果実長 mm	果実幅 mm
ワダン	5 (5-6)	厚い	ほぼ全縁	円形	3.3 (2.7-3.6)	0.6 (0.5-0.8)
ヤクシソウ	13 (12-14)	薄い	歯牙状	耳状	2.8 (2.7-3.2)	0.5 (0.4-0.5)
ヤクシワダン	9 (8-11)	中間	やや歯牙状	やや耳状	3.9 (3.8-4.1)	0.7 (0.6-0.8)

(括弧内は最小-最大)

標本の登録番号, ワダン: YCM -V 20254, ヤクシソウ: YCM -V 20255,
ヤクシワダン: YCM -V 20256-1,2

飯沼愆斎原著・牧野富太郎増訂 1912. 増訂草木
図説草部III. 国書刊行会.

神奈川県植物誌調査会編 1988. 神奈川県植物誌
1988. 神奈川県立博物館. 1442ページ.

北村四郎 1981. キク科. 佐竹ほか編 日本の野
生植物III: 156-235. 平凡社.

MAKINO, T. 1917. *Lactuca denticulato-*
platyphylla MAKINO in "A contribution
to the knowledge of the flora of Japan"
Journ. Jap. Bot. 1 (4): 11-12.

PAK J.-H. and KAWANO S. 1990. Bio-
systematic studies on the genus *Ixeris*
and its allied genera (Compositae-
Lactuceae) III. fruit wall anatomy and
karyology of *Crepidiastrum* and *Para-*
ixeris, and their taxonomic implications.
Acta Phytotax. Geobot. 41: 109-128.

杉本順一 1983. 改訂増補日本草本植物総検索誌
I 双子葉編. 井上書店. 871ページ.

杉本順一 1984. 静岡県植物誌. 第一法規出版.
814ページ.

コガネガヤツリについて

(勝山輝男)

植物誌ではカヤツリグサ属 (*Cyperus*) ひと
つにまとめたが、ヒメグ属 (*Kyllinga*),
イヌグ属 (*Mariscus*), キンガヤツリ属
(*Torulium*), カワラスガナ属 (*Pycneus*),
カヤツリグサ属 (*Cyperus*) に細分されること
もある. このうちヒメグ属を除く4属は小穂中
の関節の有無や位置, 果実の稜が小穂の軸に向く
かどうかなどが異なるだけで, 基本的な小穂の構
造に違いはない. キンガヤツリ属は小穂基部と各
小花間に関節があり, イヌグ属は小穂基部のみ
に関節がある. カヤツリグサ属やカワラスガナ属
は小穂基部や各小花間に関節がない. したがっ
て, 果実が十分に熟したときイヌグ属は小穂が
基部から落下し, キンガヤツリ属は小穂が各小花
間でバラバラになってしまう.

植物誌ではコガネガヤツリは「熟すと小穂がバラ
バラになって落ちる」と勘違いしてしまい, 細
分化した場合のキンガヤツリ属として検索表を
作ってしまった. 最近, 何人かの方からコガネガ
ヤツリは細分化したときのイヌグ属ではないか
との注意を受けた. そこでもう一度よく調べてみ

たところ, やはりコガネガヤツリは小穂基部に関
節はあるが, 各小花間には関節がない. したがっ
て, コガネガヤツリは細分化したときのイヌグ
属に属することになる.

また, コガネガヤツリの学名は *Cyperus lae-*
tus Retz. をあてたが, これは植物誌の記述に
書いたように, 森茂弥 (1977, 植物採集ニュース
No. 90) によった. 筆者には *Cyperus laetus*
の出ている海外の植物誌や図鑑が確認できな
いままである. 手元にある図鑑類では *C. strigosus*
にもっともよくあてはまる.

神奈川県産の植物補遺 (3)

(小崎昭則)

アイノコフユイチゴ

Rubus × *pseudo-hakonensis* Sugimoto

下記の文献を参考に, 茎の長毛 (ミヤマフユ
イチゴには無し) および長い刺 (フユイチゴでは小
さな刺が少し現れる程度), 萼片の長毛 (ミヤマ
フユイチゴには無し) などに注意して, 神奈川県
立博物館所蔵の植物誌標本 (No. で示す) の再検
討を行った. その結果, 次のものが上記の雑種と
判定された.

城山小倉山 SH (No. 45967, 採集者不詳, 1979.
10.15, 花序あり); 山北町世附川大又沢 YA-
4 (No. 45980, 高橋秀男氏, 1984.10.28, 花序あ
り); 山北町塩沢 YA-7 (No. 45972, 内藤美
知子氏, 1982.7.30, 花序あり); 山北町高松山
YA-8 (No. 45970, 森茂弥氏, 1982.6.4, 花序
なし); 山北町皆瀬川 YA-8 (No. 45981, 長谷
川義人氏, 1985.6.8, 花序なし; No. 45982, 高
橋秀男氏, 同一日, 花序なし); 小田原市石垣山
付近 OD-4 (No. 45891, 村上司郎氏, 1983.9.
12, 花序なし); 相模原市上大島 SA-1 (No. 4
5991, 太田泰弘氏, 1986.4.8, 花序あり; No. 45
993, 同データ, 花序なし).

<文献>

- 久米修・鳴橋直弘, 1985. フユイチゴ群植物 1.
香川県内の分布. 植物地理・分類研究, 33
(1): 21-26.
杉本順一, 1978. 改訂増補新日本樹木総検索誌.
井上書店. (p.199)

Glyceria declinata Brébisson

セイヨウウキガヤ (新称)

1988年5月10日、横浜市港北区中川町のローム質の造成地で、見慣れぬドジョウツナギ属の一種を採集した。僅かな流れのある溝辺に、よく熟した個体が3株生えていた。検討したところ、ヨーロッパの西・中部、北アメリカ(帰化?)に分布が知られる上記の種と判明した。恐らく、のり面などの緑化に用いられる草の種子に混じって入り込んだものであろう。国内における分布状況については全くわからないが、今のところ報告はないようである。推定される侵入経路からみて、本州以北で見出される可能性が小さくないことから、広義本種の原因地に因み、上記の和名を与えておく。なお、線画は北川淑子氏に描いていただいたものである。

<記相>

湿った溝辺に生える草丈45cmほどの多年草。全草無毛。茎は多数出て、基部少し伏してから立ち上がり、やや横広りの株をつくる。1本の茎につく葉は5枚程度、葉鞘は平滑で節と同長または短く、上部につく葉ではV形の口部以下が完筒状となる。葉身は長さ3~8cm、幅2.5~4mm、先の鈍いボート形をなし、下面の脈上および辺縁が僅かに粗造となる他はほぼ平滑。葉舌は長い三角状、白色で目立ち、長さ3~5mm。花期は4月頃。円錐花序は長さ20~25cm。花序の枝は平滑で、各節に偏側的に1~3本(多くは2本。上部は1本、最下のものではしばしば3本)つき、最下の長いもので3cmほどになる。小穂はふつう1~2cm長、幅2mmほど(閉じた状態)で、5~10個位の小花をつける。苞穎は護穎よりも明らかに短く、ともに1脈、第一苞穎は鈍頭または円頭状で長さ2.2~2.5mm、第二苞穎は鈍頭で長さ3.1~4.3mm。護穎は長さ4.5~4.7mm、鈍頭、外面に凸出する7脈を有し、全体にややざらつきがあり、上端付近は狭く透明状となり、先は不規則な歯状をなす。内穎は護穎とほぼ同長(この点についてはヨーロッパ産の記述と異なる)で、先端は鋭い2歯に終わり、竜骨は狭い翼をもち、縁には微細な小刺がでる。鱗被は扇状の逆さ台形をなし、高さ約0.3mm。雄ずいは3本、葯は0.8~1.0mm。花柱2本は明らかで、長さは柱頭とほぼ同じ0.6mm前後。果期は5月頃。果期の枝は各節の長い方が斜開~開出、短い方は花序の軸に沿った格好となる。よく熟すと、2個の苞穎を残して各

小花間の関節部で離れ落ちる。穎果は褐色、楕円形または僅かに倒卵状楕円形をなし、表面は細かな皺状でほとんど無毛、長さ2.1~2.35mm、幅0.9~1.25mm、ほぼ全長にわたる縦長の臍がある。

<主な参考文献>

- Clapham, Tutin, & Warburg, 1987. Flora of The British Isles, Third Edition. Cambridge Univ. Press. (p.628)
- Hitchcock, A.S., 1971. Manual of The Grasses of The United States, Rev. Ed. by Chase, A. Dover Publications. (p.86)
- Tutin, T.G., Heywood, V.H., Burges, N.A., Moore, D.M., Valentine, D.H., Walters, S.M. & Webb, D.A., 1980. Flora Europaea, Vol.5. Cambridge Univ. Press. (p.181)

[訂正]

No. 29 : 298, 右下側

※ミヤコヤブソテツはヤマヤブソテツの誤りでした。

No. 30 : 320, 上4行

スズメノヒエ→キシユウスズメノヒエ。

[補足]

マメザクラの花柱の毛について (No. 30 : 314 左下)

西丹沢、雨山峠で花柱有毛の株を1個体確認した(1991. 4. 29)。本種の花柱の毛に関しては、千葉生物誌 Vol. 33 (1) に掲載された長谷川・糟屋(1983)の調査報告が大変参考になる。

Glyceria declinata Brébisson

セイヨウウキガヤ (新称)



凡 例

全体図 (×0.5) ; 小穂 (×3)

A 苞穎 (×8) ; B 護穎 (×8)

C 内穎 (×8) ; D 穎果 (×8)

小崎標本 No. 6808

1988年5月10日採集

神奈川県横浜市港北区中川町

各調査メッシュに分布の追加される植物Ⅱ

(田中徳久)

はじめに

『神奈川県植物誌1988』(神奈川県植物誌調査会編, 1988)の発刊以後, その調査メッシュに, 分布が追加記録されている植物は数多い(大森, 1989, 1991; 浜口, 1989; 城川ほか, 1989; 神奈川県植物誌調査会編, 1991など)。

本報においても, 前報(田中, 1991)に引き続き, 『神奈川県植物誌1988』の調査メッシュ中に, 分布の記録がない, いくつかの種について報告する。前報同様, 追加される植物の学名・和名のほか, ①観察日時・場所, ②追加されるメッシュ, ③特記事項(観察状況, 県内の分布状況等)を記した。また, 各植物の配列, 学名, 和名は, 『神奈川県植物誌1988』に従った。各植物の先頭の数字は前報からの通し番号である。

追加される種と調査メッシュ

11. *Phragmites japonica* Steud.

ツルヨシ

①1991年8月24日, 箱根仙石原湿原内を流れる早川の支流(用水路?)沿いで, 出穂直前の本種を観察, 標本を採集した。

②箱根-1

③1985年8月以来, 同地において, 数度にわたり, 本種を観察していたが, なかなか採集の機会に恵まれなかった。今回, 地上部のみで, 完全な標本とは言えないが, 出穂直前の個体を採集することができた。

『神奈川県植物誌1988』(以下『県植誌』と略記)によると, 多摩川や, 相模川, 酒匂川などの河川に沿って分布が記録されており, 県西部では, ほとんどの調査メッシュで分布が記録されている。箱根-1の調査メッシュには, 「メモなどによる記録」によって本種の分布が示されており, 本報の記録は新分布の記録とはならないが, 証拠標本を採集したので特に報告した。

12. *Silene firma* Sieb. et Zucc.

フシグロ

①1991年9月12日, 横浜自然観察の森, ノギクの広場において, 実を实らせた, 昨秋に開花したものと思われる本種を観察, 標本を採集した。

②戸塚-3

③1990年8月に横浜で開かれた, 第5回国際生態

学会議の際に, 横浜市の主催で行われた, サイエンティフィック・ヴィジット(エクスカージョン)の下見時に, 横浜自然観察の森の林辰雄園長, 川村研治, 古南幸弘の両レンジャーに案内して頂き, 本種を観察した。

今回採集した標本は, すでに枯死したもので, はっきりとはしないが, 萼に多少軟毛が見られ, ケフシグロ(*f. pubescens* (Makino) Ohwi)と呼ばれるものようである。本生育地での個体数は非常に少ない。

『県植誌』によると, 相模川, 酒匂川などの河川に沿って分布が記録されており, 県西部に多い。横浜市内でも, 港南区, 保土ヶ谷区, 緑区などから報告されている。

13. *Parnassia palustris* L.

var. *multisetosa* Ledeb.

ウメバチソウ

①1991年8月24日, 箱根仙石原湿原のススキ草原中で, 本種を観察, 標本を採集した。

②箱根-1

③本種は, 数年毎に刈取りが行なわれ, ススキの生育密度が比較的小さく, 草丈の低くなっているススキ草原中に生育していた。観察時, 本種は, まだ小さなつぼみの状態であったが, 証拠標本として, 2株を採集した。周辺には, オミナエシ, マツムシソウ, カワラナデシコなどが開花中であった。

『県植誌』によると, 丹沢, 箱根の両山地と, 横浜に分布の記録がある。箱根-1の調査メッシュには, 「メモなどによる記録」によって本種の分布が示されており, 本報の記録は新分布の記録とはならないが, 証拠標本を採集したので特に報告した。

14. *Impatiens textori* Miq.

ツリフネソウ

①1991年8月24日, 箱根神社裏手の駐車場脇において, 開花中の本種を観察, 標本を採集した。

②箱根-4

③本種は, 駐車場に接するスギ植林地の林縁に生育していた。その生育地は, ツリフネソウの生育立地としては良好な場所とは思えないが, 周囲の状況から考えて, 植栽のものとは考えられず, 自生のものようである。証拠標本として1株を採集した。

『県植誌』によると、横浜、川崎の都市部や、湘南海岸沿いには比較的少ないが、神奈川県下のはほぼ全域に分布が記録されている。神奈川県下では、同属のキツリフネ (*I. noli-tangere* L.) に比べ、生育地、個体数ともに多いようである。

15. *Calystegia japonica* Choisy

ヒルガオ

①1991年8月24日、箱根仙石原湿原内を流れる、箱根町立箱根湿生花園へと通じる入水路脇において、開花中の本種を観察、標本を採集した。

②箱根-1

③本種は、入水路沿いの木柵周辺に、ススキ草原のマント群落の構成種として生育していた。証拠標本として、開花している花を中心に、地上部のみを採集した。

『県植誌』によると、丹沢、箱根の両山地には比較的少ないが、神奈川県下のはほぼ全域から分布が記録されている。仙石原湿原からは、宮脇ほか(1980)中で、松浦正郎らにより、同属のコヒルガオ (*C. hederacea* Wall.) とともに分布が報告されている。

16. *Artemisia capillaris* Thunb.

カワラヨモギ

①1991年9月12日、横浜自然観察の森、ノギクの広場において、開花中の本種を観察、標本を採集した。

②戸塚-3

③前述のフシグロとともに、第5回国際生態学会議の際の、サイエンティフィック・ヴィジットの下見時に観察した。

本生育地での個体数は多いが、その生育立地からみて、植樹等に際して、搬入されてきた土砂に伴って、いつの間にか移入された人為分布ではないかと思われる(前述のフシグロにもその可能性があると思う)。

『県植誌』によると、相模川流域や、湘南海岸などから分布が記録されている。横浜市内では、保土ヶ谷区からも報告されている。また、城川ほか(1989)によると、鶴見区や中区の港湾部でも採集されている。

おわりに

本報で報告した各植物の標本は、すべて神奈川県立博物館に提出した。さらに、前報で報告した

植物のうち、以下の種の標本についても、同じく神奈川県立博物館に提出した。各植物の先頭の番号は、前報と対応しており、便宜的に、和名のほか(スペースの都合で学名は割愛した)、①採集した調査メッシュ、②採集地、③採集年月日を記した。採集者はすべて筆者である。

1. アオフタバラン

①大山 ②大山 ③1990年6月23日

9. ハグロソウ

①箱根-4 ②箱根神社 ③1991年8月24日

また、前報で報告したアオフタバランの観察年月日、1989年6月23日は、1990年6月23日の誤りであった。

本報告をまとめるに当たり、フシグロとカワラヨモギの生育地について御教示頂いた横浜自然観察の森の林辰雄園長、および川村研治、古南幸弘の両レンジャーに厚く御礼申し上げる。また、各地での植物観察行をともにし、御助力頂いた、小泉玲子氏に感謝の意を表する。

引用文献

浜口哲一. 1989. 湘南ブロックの追加記録. FLORA KANAGAWA, 27: 251-253.

神奈川県植物誌調査会編. 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp. 神奈川県立博物館, 横浜.

神奈川県植物誌調査会編. 1991. 各メッシュ追加標本リスト. FLORA KANAGAWA, 30: 321-333.

城川四郎ほか. 1989. 各メッシュ追加植物リスト. FLORA KANAGAWA, 27: 254-270.

宮脇昭ほか. 1980. 箱根仙石原の植生. 横浜植生学会報告, 20. 140pp. (付植生図3) 横浜植生学会, 横浜.

大森雄治. 1989. 横須賀市博物館に追加された植物. FLORA KANAGAWA, 27: 235.

大森雄治. 1991. 三浦ブロックの新産地の追加記録. FLORA KANAGAWA, 30: 333-334.

田中徳久. 1991. 各調査メッシュに分布の追加される植物 I. FLORA KANAGAWA, 30: 300-302.

[追記] フシグロ、カワラヨモギの両種については、横浜自然観察の森の林辰雄園長からも、神奈川県立博物館に、証拠標本が提出されている。

1991年各メッシュ追加標本リスト その1 (県立博物館分)

トクサ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ナツノハナワラビ YU-1 桜山 宮崎卓
 オオハナワラビ HAK-6 明神ヶ岳 浜中義治
 コヒロハハナヤスリ TAM 樹形 宮崎卓
 ウラジロ OD-2 水之尾 浜中義治
 ウチワゴケ HAK-4 姥子 浜中義治
 ホウライシダ HAK-6 底倉 浜中義治
 ハコネシダ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 クジャクシダ OD-2 水之尾 浜中義治
 HAK-5 畑宿 内田藤吉
 イワガネゼンマイ OD-2 風祭 浜中義治 ZA 栗原 小崎昭則
 SE ニツ橋町 小崎昭則
 ウラゲイワガネ YU-1 桜山 宮崎卓
 イヌシダ HAK-4 姥子 浜中義治
 イワヒメワラビ ZA 入谷一丁目 小崎昭則
 TAM 菅城下 宮崎卓
 クジャクフモトシダ OD-2 水之尾 浜中義治
 オオバノハチジョウシダ YU-1 不動滝 勝山輝男
 イノモトソウ KI-2 宮ヶ瀬 小崎昭則他
 マツザカシダ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 OD-3 国府津 浜中義治
 キジノオシダ YU-1 桜山 宮崎卓
 ハカタシダ ZA 栗原 小崎昭則
 オニカナワラビ TAM 万福寺一丁目 宮崎卓
 コバノカナワラビ HAK-5 湯本 浜中義治
 リョウメンシダ HAK-6 底倉 浜中義治
 ホソバイスワラビ TAM 万福寺 藤田明嗣
 ニシキンダ YAT 福田 山本明 TSR 獅子ヶ谷 高坂雅子
 ヤマイスワラビ TO-1 弥生台 小崎昭則
 ヒロハイスワラビ TO-1 弥生台 小崎昭則
 ヘビノネゴザ KAZ 金沢市民の森 山本明
 シケチシダ MIA-2 道了尊 浜中義治
 キヨスミヒメワラビ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 TAM 片平 宮崎卓
 ホシダ HAK-6 底倉 浜中義治
 ヤマヤブソテツ HAK-4 湖尻 浜中義治
 キョウタキシダ MIU 三崎口駅 宮崎卓 TO-1 弥生台 小崎昭則
 ヘラシダ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子 HAK-5 湯本 浜中義治
 コクモウクジャク ZU 桜山 青木清勝
 ノコギリシダ HAK-6 底倉 浜中義治
 イヌイワヘゴ MIA-2 大雄町 長谷川義人
 サイゴクベニシダ EB 国分 小崎昭則他 ZA 栗原 小崎昭則
 トウゴクシダ HAK-6 底倉 浜中義治 EB 柏ヶ谷 小崎昭則他
 サクライカグマ KI-2 宮ヶ瀬 小崎昭則 高橋秀男 城川四郎
 オオベニシダ HAK-4 早雲山 浜中義治
 KI-2 宮ヶ瀬 小崎昭則 高橋秀男 城川四郎
 ギフベニシダ TO-1 弥生台 小崎昭則
 ナガバノイタチシダ OD-4 根府川 藤田明嗣
 オオイタチシダ HAK-6 強羅 浜中義治
 ナライシダ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 オオホソバンケンシダ ZA 入谷三丁目 小崎昭則
 コセイタカシケンシダ AS 矢指町 小崎昭則
 セイタカシケンシダ ZA 栗原 小崎昭則
 フモトシケンシダ OD-2 水之尾 浜中義治
 ミヤマシケンシダ MIU 小網代 山本明
 アイアスカイノデ HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 ツヤナシノデ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 イノデ HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 サイゴクイノデ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子

サカゲイノデ YA-8 洒水の滝 長谷川義人
 イノデモドキ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 ジュウモンシケンシダ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ヒメカナワラビ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ドウリョウイノデ SH 雨降 小崎昭則 北川淑子
 オオタニイノデ EB 大谷 小崎昭則他
 コハシゴシケンシダ YU-1 桜山 宮崎卓
 アイヒメワラビ MI-1 新治町 小崎昭則 北川淑子
 ZA 入谷三丁目 小崎昭則 AS 矢指町 小崎昭則
 SE 東野 小崎昭則 TO-1 弥生台 小崎昭則
 HO 川島町 小崎昭則
 イワデンダ HAK-4 駒ヶ岳 内田藤吉
 コモチシケンシダ HAK-4 湖尻 浜中義治
 トキワトラノオ TAM 生田緑地 宮崎卓他
 コバノヒノキンダ YU-2 鍛冶屋 米山智恵子
 ヒメノキンノブ KI-2 宮ヶ瀬 小崎昭則 高橋秀男 城川四郎
 クリハラン HAK-6 底倉 浜中義治 HAK-5 湯本 浜中義治
 オオアカウキクサ HAT-4 峠長谷川義人
 モミ YU-2 鍛冶屋 米山智恵子
 スギ OD-2 風祭 浜中義治
 アスナロ HAK-1 仙石原 浜中義治 HAK-4 丸山 浜中義治
 MIA-2 明星林道 浜中義治
 エビモ AS 矢指町 小崎昭則
 ヘラオモダカ HAK-1 仙石原 浜中義治
 トウゴクヘラオモダカ TAM 生田緑地 北川淑子
 ウリカワ SA-2 当麻 宮崎卓
 オモダカ HAK-1 仙石原 浜中義治
 コカナダモ OD-4 早川河口 石原龍雄
 クロモ HAK-3 芦ノ湖 石原龍雄
 タチカモジグサ MIN 六ツ川一丁目 長谷川義人
 シバムギ NAK 新港埠頭 吉川アサ子
 ハイコスカグサ HAK-5 甘酒茶屋 勝山輝男
 スズメノテッポウ HAK-5 山崎 浜中義治
 HAK-2 芦川 浜中義治
 オオスズメノテッポウ NAK 桜木町 吉川アサ子
 HAY 長柄 長谷川義人
 メリケンカルカヤ MIA-3 塚原 浜中義治
 ハルガヤ YAT 福田 政木淑人 HAK-1 仙石原 浜中義治
 KAZ 並木 浜中義治
 コバンソウ MI-1 三保町 高坂雅子
 ヒメコバンソウ HAK-5 山崎 浜中義治
 ムクゲチャヒキ MI-2 荏田町 北川淑子
 スズメノチャヒキ NIS 北幸町 吉川アサ子
 キツネガヤ OD-2 風祭 浜中義治
 ヒゲナガスズメノチャヒキ MI-2 荏田町 北川淑子
 ホッソガヤ MI-2 赤田 北川淑子
 コメヒンバ HAK-6 底倉 浜中義治
 アキメヒンバ SA-2 当麻 宮崎卓
 アブラススキ SA-2 当麻 宮崎卓
 タイヌビエ SA-2 当麻 宮崎卓
 シンダレスズメガヤ HAK-1 金時山 浜中義治
 カゼクサ MIA-3 塚原 浜中義治
 コスズメガヤ MI-2 赤田 北川淑子
 オオナギナタガヤ NAK 本牧 小崎昭則
 ナギナタガヤ HAK-4 箱根園 浜中義治
 HAK-5 湯本 浜中義治
 オオウシノケグサ HAK-5 畑宿 浜中義治
 HAT-1 鍋割山一丸 城川四郎
 セイヨウウキガヤ KOH 中川町 小崎昭則
 ウラハダガヤ YU-2 鍛冶屋 米山智恵子

シラゲガヤ MI-2 荏田町 北川淑子
 チガヤ HAK-5 湯本 浜中義治
 サヤスカグサ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ポウムギ FU-3 辻堂西海岸 勝山輝男
 ミチシバ FUJ-1 藤野町 武井尚
 ササガヤ MIA-3 塚原 浜中義治
 アンボン MIA-2 明星林道浜中義治
 チャボチヂミザサ AS 矢指町 小崎昭則
 スカキビ SA-2 磯部 宮崎卓
 キビ SA-4 共和 政木淑人
 キシュウズズメノヒエ MI-1 子供の国北川淑子
 アメリカズズメノヒエ TAM早野 北川淑子
 オオアワガエリ HAK-5 畑宿 浜中義治 MI-2 赤田 北川淑子
 ヨシ NIS楠町 吉川アサ子
 ツルヨシ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ミゾイチゴツナギ HAK-4 湖尻 浜中義治
 タマミゾイチゴツナギ YA-8 尺里 長谷川義人
 スズメノカタビラ OD-3 田代 浜中義治
 ヤマミゾイチゴツナギ HAK-1 仙石原 浜中義治
 TSR獅子ヶ谷市民の森 高坂雅子
 オオイチゴツナギ OD-4 入生田 浜中義治
 オオズズメノカタビラ YU-2 福浦 米山智恵子
 KI-2 宮ヶ瀬 高橋秀男
 スメリグサ HO 花見台 吉川アサ子
 エノコログサ OD-2 水之尾 浜中義治
 HAK-6 宮城野 浜中義治
 オオエノコロ OD-2 水之尾 浜中義治
 セイバンモロコシ OD-2 扇町 浜中義治
 クサビガヤ KAW 東扇島 小崎昭則
 オオアブラススキ TO-3 横浜自然観察の森 林辰雄
 ヒロハノハネガヤ MIA-2 最乗寺 長谷川義人
 コムギ HO 花見台 吉川アサ子
 マダケ OD-2 風祭 浜中義治 MIA-2 矢佐芝 浜中義治
 アズマネザサ OD-3 国府津 浜中義治
 スズタケ AT-3 田野 高坂雅子
 ミノボロスゲ MI-1 子供の国 勝山輝男
 アオスゲ KAW東扇島 小崎昭則 OD-4 入生田 浜中義治
 メアオスゲ KI-3 物見峠 長谷川義人
 ハマアオスゲ KAW東扇島 小崎昭則
 イトアオスゲ KI-2 宮ヶ瀬 高橋秀男
 コゴメスゲ HAY長者ヶ崎長谷川義人 YO-1 猿島 長谷川義人
 ハリガネスゲ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ヒメカンスゲ YU-2 白銀林道 高橋秀男
 ナルコスゲ MIA-1 地蔵堂 長谷川義人
 ミヤマカンスゲ KI-3 物見峠 長谷川義人
 タマツリスゲ HAK-1 仙石原 浜中義治
 スナジスゲ MI-1 子供の国 勝山輝男
 ハコネイトスゲ YU-2 鍛冶屋 長谷川義人
 ヤマアゼスゲ HO 川島町 長谷川義人
 HAK-4 箱根園 浜中義治
 ホシナシゴウソ MI-1 子供の国北川淑子他
 スカスゲ MAT 寄沢 勝山輝男 ZU 神武寺 城川四郎
 ノゲスカスゲ HAT-4 枋窪 勝山輝男
 カンスゲ HAK-4 早雲山 浜中義治 AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 オタルスゲ HAK-1 仙石原 浜中義治
 *オタルアゼスゲ HAK-1 仙石原 勝山輝男
 コジュズスゲ HAK-1 仙石原 浜中義治
 MIA-1 関場 長谷川義人
 ホンモンジスゲ TSR獅子ヶ谷高坂雅子
 AT-3 鞍掛沢 高坂雅子 YU-2 白銀林道高橋秀男

コカンスゲ HAK-5 底倉 浜中義治
 シラコスゲ MIA-1 地蔵堂 長谷川義人
 ヤブスゲ MI-1 子供の国 勝山輝男 HAK-2 芦川 浜中義治
 HAK-4 箱根神社 浜中義治
 クサスゲ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ゴンゲンスゲ AS 都岡町 小崎昭則
 オオイトスゲ YU-2 鍛冶屋 長谷川義人
 ミカワオオイトスゲ HAK-1 仙石原 富野美子
 チャガヤツリ OD-2 風祭 浜中義治
 ヒメクグ OD-2 水之尾 浜中義治 NIS浅間町 吉川アサ子
 クグガヤツリ OD-4 早川 浜中義治
 ヒナガヤツリ NIS浅間町 吉川アサ子
 コゴメガヤツリ KAW東扇島 小崎昭則
 アオガヤツリ HO 神戸町 吉川アサ子
 セイタカハリイ MI-1 子供の国勝山輝男
 クログワイ TAM菅仙谷 宮崎卓
 ヒメヒラテンツキ NIS浅間町 吉川アサ子
 テンツキ KAW 東扇島 小崎昭則 NAK新港埠頭吉川アサ子
 NIS浅間町 吉川アサ子
 ヒデリコ NIS 浅間町 吉川アサ子 MIA-2 丸太の森 浜中義治
 ヒンジガヤツリ YU-2 吉浜 米山智恵子
 NIS浅間町一丁目 吉川アサ子 ZA 入谷三丁目 小崎昭則
 イワキアブラガヤ MI-1 中山町 北川淑子
 MI-2 佐江戸町 北川淑子
 コウキヤガラ MI-2 佐江戸町 勝山輝男
 タタラカンガレイ MI-2 佐江戸町 勝山輝男
 セキショウ OD-2 入生田 浜中義治
 コンニヤク NIS 楠町 吉川アサ子
 ヒトツバテンナンショウ MIA-1 地蔵堂 長谷川義人
 ムラサキマムシグサ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ホシクサ MI-1 いぶき野 勝山輝男
 イボクサ HAK-1 仙石原 浜中義治
 コナギ OD-2 入生田 浜中義治
 ホソイ MI-1 子供の国 勝山輝男
 クサイ ZU 森戸川 浜中義治
 スズメノヤリ HAK-4 姥子 浜中義治 HAK-1 仙石原 浜中義治
 アマナ HAT-4 峠 長谷川義人
 シロバナショウジョウバカ HAK-5 早川 石原龍雄
 ヤブカンゾウ OD-2 入生田 浜中義治 HAK-5 須雲 内田藤吉
 ヤブラン HAK-4 早雲山 浜中義治
 ジャノヒゲ OD-3 国府津 浜中義治
 ツクバネソウ HAK-1 姥子 浜中義治
 バイケイソウ HAK-5 須雲川大沢源流 勝山輝男
 キクバドコロ YU-2 鍛冶屋 米山智恵子
 HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 ヒメドコロ AT-3 飯山観音 高坂雅子
 キンショウブ HAK-5 畑宿 浜中義治
 オオニワゼキショウ ISO新杉田 浜中義治
 ヒメヒオウギズイセン KAW東扇島 小崎昭則
 ハナミョウガ HAK-5 湯本 浜中義治
 ミョウガ HAK-2 芦川 浜中義治
 エビネ HAK-6 宮城野 浜中義治
 マヤラン MI-1 寺家 小森勝治
 クロヤツシロラン HO 初音ヶ丘 吉川アサ子他
 シュスラン ZU 池子 T・N氏
 コクラン AS 矢指町 小崎昭則
 アオフタバラン OY 太山 田中徳久
 ヤマトキショウ YU-2 鍛冶屋 長谷川義人
 ネジバナ HAK-5 湯本 浜中義治
 キバナノショウキラン YA-8 酒水の滝城川四郎

ヒトリシズカ OD-2 水之尾 浜中義治
 バッコヤナギ HAK-5 須雲川 内田藤吉 OD-2 風祭 浜中義治
 イスコリヤナギ HAK-2 芦川 浜中義治
 HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 シングレヤナギ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ヒメヤシャブシ HAK-5 須雲川 内田藤吉
 オオバヤシャブシ HAK-1 仙石原 浜中義治
 シラカンバ AS 下川井町 小崎昭則
 サワシバ YA-8 酒水の滝 長谷川義人
 クマシデ MIA-3 塚原 浜中義治
 アカシデ TO-3 横浜自然観察の森 林辰雄
 HAK-4 湖尻 浜中義治
 ハンバミ AS 矢指町 小崎昭則
 ツノハンバミ HAK-1 仙石原 浜中義治
 スダジイ HAK-6 底倉 浜中義治 AT-3 田野 高坂雅子
 クスギ MIA-3 塚原 浜中義治
 エノキ OD-2 水之尾 浜中義治
 メゲヤキ YA-8 平山 長谷川義人
 コウゾ MIA-2 明星林道 浜中義治
 クワクサ HAK-1 仙石原 浜中義治
 イタバズラ OD-2 風祭 浜中義治
 ウスバラセイタソウ MIA-2 飯沢 浜中義治
 ツクシヤブマオ OD-2 風祭 浜中義治
 ナガバヤブマオ HAK-1 金時山 浜中義治
 ヤナギイチゴ HAK-6 底倉 浜中義治 YA-8 平山 長谷川義人
 ヒメウバミソウ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ウワバミソウ MIA-3 大雄町 浜中義治
 ミズ MIA-2 明星林道 浜中義治
 イラクサ HAK-1 仙石原 浜中義治 MIA-3 狩野 浜中義治
 カナビキソウ TO-3 横浜自然観察の森 林辰雄
 オオバヤドリギ OD-2 城山 山内好孝
 カントウカンアオイ AT-3 田野 高坂雅子
 ソバカズラ NAK 新港埠頭 吉川アサ子
 ハルトラノオ HAK-5 須雲川 大沢源流 勝山輝男
 ソバ OD-3 田代 浜中義治
 ミヤマタニソバ YA-8 酒水の滝 長谷川義人
 ヤナギタデ HAK-1 仙石原 浜中義治
 ホソバタデ SA-2 上溝 政木淑人
 イシミカワ HAK-5 山崎 浜中義治
 サナエタデ KAW 東扇島 小崎昭則
 ママコノシリヌグイ SA-2 磯部 宮崎卓
 アキノウナギツカミ MIA-2 明星林道 浜中義治
 ミゾソバ OD-2 水之尾 浜中義治
 オオミゾソバ MIA-2 矢佐芝 浜中義治
 ホザキニワヤナギ NAK 新港埠頭 吉川アサ子
 スイバ HAK-4 箱根園 浜中義治
 ヒメスイバ HAK-1 仙石原 浜中義治 HAK-4 箱根園 浜中義治
 ナガバギンギシ HAK-2 芦川 浜中義治
 ギンギシ HAK-4 箱根園 浜中義治
 コギンギシ YAT 上和田宮久保 武井尚
 シロザ MIA-2 飯沢 浜中義治
 ケアリタソウ MIA-2 明星林道 浜中義治
 ハリセンボン NAK 新港埠頭 吉川アサ子
 ヨウシュヤマゴボウ OD-2 風祭 浜中義治
 ナシロイバナ MIA-3 狩野 浜中義治 HAK-5 山崎 浜中義治
 スベリヒユ HAK-5 山崎 浜中義治
 ミノノツリ HAK-4 箱根園 浜中義治
 ミミナグサ KAW 東扇島 小崎昭則 MIA-2 明星林道 浜中義治
 マツヨイセンノウ MI-2 赤田 北川淑子
 フシグロ TO-3 自然観察の森 林辰雄

シロバナマンテマ NIS 臨港パーク 吉川アサ子
 MI-2 赤田 北川淑子
 ノミノフスマ KAW 東扇島 小崎昭則
 ウシハコベ HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 MIA-2 明星林道 浜中義治
 サワハコベ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ミドリハコベ HAK-5 湯本 浜中義治
 ミヤマハコベ HAK-1 姥子 浜中義治
 フサザクラ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 MI-1 三保市民の森 小崎昭則, 北川淑子
 ヤマトリカブト AT-3 田野 高坂雅子
 イヌハコネトリカブト YU-1 桜山 宮崎卓
 イヌショウマ HAK-1 金時山 浜中義治
 サラシナショウマ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ボタンヅル YU-1 宮上 米山智恵子
 コボタンヅル NIS 浅間町 吉川アサ子
 ハコネシロカネソウ HAK-4 湖尻 浜中義治
 トウゴクサバノオ AT-3 鞍掛沢 高坂雅子
 ゴウアケビ HAK-1 台ヶ岳 浜中義治
 HAK-2 畑引山 浜中義治
 メギ YAT 下鶴間 武井尚
 ナンテン HAK-5 湯本 浜中義治
 コウモリカズラ MI-1 寺家 勝山輝男
 シキミ HAK-1 姥子 浜中義治 OD-2 風祭 浜中義治
 サネカズラ HAK-6 底倉 浜中義治
 コブシ MIA-3 塚原 浜中義治
 ホオノキ OD-2 水之尾 浜中義治
 クスノキ HAK-6 明神ヶ岳 浜中義治
 ヤブニッケイ HAK-6 底倉 浜中義治
 ヤマコウバシ TSR 獅子ヶ谷 高坂雅子
 イヌガシ HAK-5 須雲川 内田藤吉
 シロダモ OD-2 風祭 浜中義治 AT-3 田野 高坂雅子
 ムラサキケマン HAK-4 早雲山 浜中義治
 ナズナ HAK-1 仙石原 浜中義治 HAK-4 芦ノ湯 浜中義治
 ミツバコンロンソウ HAK-1 台ヶ岳 浜中義治
 ヒロハコンロンソウ HAK-5 須雲川 大沢黒岩橋 勝山輝男
 ミズタネツケバナ ZU 森戸川 浜中義治
 HAK-4 箱根園 浜中義治
 ジャニンジン ZU 森戸川 浜中義治
 マルバコンロンソウ HAK-1 姥子 浜中義治
 クジラグサ KAW 千鳥町 小崎昭則
 ニリワサビ HAT-4 峠 長谷川義人
 マメグンバイナズナ OD-4 入生田 浜中義治
 オランダガラシ TSR 獅子ヶ谷 高坂雅子
 ショカツサイ HAK-6 強羅 浜中義治 OD-4 入生田 浜中義治
 キレハイヌガラシ MI-1 子供の国 勝山輝男
 ノハラガラシ NAK 新港埠頭 吉川アサ子
 グンバイナズナ MI-2 荏田町 北川淑子
 マルバマンネングサ OD-4 入生田 浜中義治
 オカタイトゴメ OD-4 早川 浜中義治
 ネコノメソウ HAK-1 仙石原 浜中義治
 HAK-5 須雲川 大沢源流 勝山輝男
 ヤマネコノメソウ HAK-1 台ヶ岳 浜中義治
 ムカゴネコノメ MIA-1 関場 長谷川義人
 コアジサイ AT-3 飯山観音 高坂雅子
 コチャルメルソウ HAK-6 底倉 浜中義治
 ウメバチソウ FUJ-1 陣馬山 武井尚
 HAK-1 仙石原湿原 田中徳久
 バイカウツギ HAK-5 須雲川 内田藤吉
 ユキノシタ HAK-2 芦川 浜中義治

(スペースの都合によりリストの続きは次号に掲載します 編集は勝山, 北川, 小崎でした)